

京都工業会 ニュース

基本理念

—21世紀を担うモノづくり集団—

京都からモノづくりイノベーション

2011 No.367

震災お見舞い

この度の「東日本大震災」により被害を受けられました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早く復旧されますことを心からお祈り申し上げます。

また被災地域において生産・営業活動の中、甚大な被害を受けられました本会会員事業所及び関係事業所各位に謹んでお見舞いを申し上げますとともに、早期の復旧を会員事業所一同、心からお祈り申し上げます。

社団法人 京都工業会

～中小企業委員会と北部会員企業との交流会を開催～

3/23～24

現状の話題交換と今後の連携に向けて

去る3月23日(水)～24日(木)、本会・中小企業委員会と中小企業見学会合同で、北部会員企業との交流会を開催した。

冒頭、本会・中小企業委員会 委員長 岡本光三氏(株)大日本科研 社長)と丹後機械工業協同組合 理事長 古川康夫氏(株)日昌製作所 社長/本会理事)が、「本日の交流会を通し、今後の新たな連携を深めていきたい」とそれぞれ挨拶。その後、双方の事務局が、現在取り組んでいる事業内容を紹介した。そして、日常業務における納期管理上の課題や11日に発生した「東日本大震災」による部材調達への影響及び海外進出の際の留意点など、相共通する経営課題について、活発な意見交換を行った。

翌日、午前中は、(株)日昌製作所 峰山工場(精密機器部品製造:社長 古川康夫氏がご案内)、(株)日進製作所 赤坂工場(各種精密部品、型型ホーニング盤製造:社長 錦織 隆氏<本会副会長>がご案内)、(株)白石バイオマス(バイオプラスチック原料製造:社長 山岡経助氏<株)日進製作所 専務取締役>がご案内)を、午後は、



現地行政の技術面、人材育成面の産業支援機関である丹後・知恵のものづくりパーク(京都府織物・機械金属振興センター 所長 八木一樹氏、財団法人 京都産業21 北部支援センター長 坂本悦二氏がご案内)及び(株)峰山鉄工所(精密型打鍛造:社長 平田勝彦氏がご案内)をそれぞれ訪問。最近の経営事例、製品や技術の開発及び現地産業育成への取り組み活動等を見聞。今後の連携に向け、充実した交流会となった。

作田 久男副会長を迎え研鑽

2月17日夕、白鷺クラブでは本会副会長・作田久男氏（オムロン（株）社長）をリーガロイヤルホテル京都に迎え、第407回例会を開催した。



“京都工業会首脳との交流”を主題とするこの会合は、毎回会員の関心の高い例会であり、当日は会員多数が出席した。

作田副会長は、「リーダーに求められること」をテーマに8年間に及ぶ社長体験の中から得られた経営への貴重な教訓のいくつかを吐露された。

- はじめに、リーダーたちに伝えていること、として
- 強烈な意志（高い志、責任感）
 - ネガティブな勇氣（やめる、捨てる、変える、など）
 - インサイト能力（右脳的なもの：洞察力、ひらめき、想像力）
 - しつこさ（考えるしつこさ、実行するしつこさ、など）
 - ソフトな統率力（管理者→ハードを用いて
目標値、MBOなど）
（リーダー→ソフトを用いて
ビジョン、コミュニケーション）
 - 主観をはっきりと前面に出せ
ミッション（何がしたいのか？）
ビジョン（どのようにするのか？）
バリュー（それを支えている価値観は？）

次に、危機こそチャンス、として2008年に同社の営業利益が大幅に落ち込んだことへの対応策として立ち上げた緊急対策と構造改革について様々な事例を含め述べられた。この危機をどう乗り越えるか？会社としてどうすべきか？を追求する中で、事業ドメイン戦略は？、運営戦略は？について、先述のミッション、ビジョン、バリューを明確にした中で対策が練られていった。

更には、リーダーは目標を掲げ共感を得る、として、当面の危機をいかに乗り越えるか？、その後どこをめざすのか？を問い続け、目標なり通過点を掲げることによって全社員の共感を得ることが必要だと述べられ、経営トップの自覚と研鑽の重要性を強調された。

その後は和やかな懇親会を開催、大いに意見交換を行いながら極めて有意義な例会を終えた。

第526回京都工業クラブ

「パーフェクト・ストーム」

～日本の製造業が直面する3大暴風の乗り切り策～

グローバリング（株） 代表取締役 稲垣 公夫氏

現在の産業界の世界的潮流とその対応策について、NEC本社・NECアメリカで事業構造改革に大きな成果を上げられたコンサルタント・稲垣公夫氏を迎えてお話を伺った。



「デジタル化」「グローバル化」「モジュール化」という3つの嵐が更にそれぞれ増幅し合って強大な嵐となっている現在の世界的状況を踏まえ、日本的もの造りの問題点を指摘され、今後は製造だけではなく開発での革新が重要となること、そしてビジネスモデルや産業構造の変革、ひいては日本の改革（第三の開国、教育改革）の必要性について述べられた。

第527回京都工業クラブ

「関西経済の活性化に向けて」

近畿経済産業局 局長 永塚 誠一氏

昨年7月に赴任された近畿経済産業局長 永塚誠一氏をお迎えし、「関西経済の活性化に向けて」と題してお話を伺った。まず経済の動向について述べられた後、EPA／TPPの推進についてとして、・FTA競争と日本の出遅れ ・TPPの進展と日本の早期交渉入り決断の必要性 ・TPP参加のメリット ・国内農業との両立 等、大きな論議を呼んだTPPについて解説され、今後の経済活性化への道筋を示された。



第528回京都工業クラブ

「ブラジル経済最新レポート」

日本貿易振興機構 海外調査部
中南米課課長代理 二宮 康史氏

近年世界経済の中で急速に存在感を増しているブラジル経済の最新動向について、ジェトロの二宮康史氏を迎えてお話を伺った。資源大国であり親日的であるブラジルの概要、貿易投資動向、経済・産業動向、そして日系企業の進出事例や課題を述べられ、最後に、「日本企業の進出は今後も続くが、競争環境はより厳しくなるだろう。今後は「資源」「消費市場」に加え「インフラ」がビジネスのキーワードになる。」と述べられた。



中堅・中小企業の中国進出へのサポート事業

12月に引き続き、1月26日、2月15日、3月16日の3日にわたり、副会長企業6社からお話をいただいた。

オムロン(株) 後藤龍之介 執行役員

「オムロンの経験した会社設立の形態」と題して、特に、大連のOMDと湖南省の衡陽OPTの例を紹介された。特に、衡陽では、労働力を求めて内陸へ、レンタル工場を利用し、短期間で立ち上げた。当時の最初の日系企業であり、地方政府のワーカー確保など協力サポートがあった。中国は法治国家であり、ビジネスに関しては法が完備されているが、運用は政府の裁量で、法の解釈はまちまち。法律にはセンシティブになったほうがよい。

日本こそは特殊な国で、日本の常識は世界の非常識だということを認識すること。総体として中国人は優秀だが、したたか。また、失敗したときの撤退戦略が必要。

日本の製造業は世界に誇るビジネススタイルを持っており、品質とコストをトレードオフにしない。Made In Kyotoブランドができないか。

(株)日進製作所 坪倉誠一 専務取締役

「中国に於いて体験した労働争議」と題して、山東省萊州日進機械有限公司の田中広明董事総経理からご紹介。2010年6月20日賃上げ待遇改善を求めて労働争議が起これ、ラインが止まったので、継続協議を条件に個別説得して職場復帰、7月9日に双方合意して終息した。

発生の要因は、近隣のストや賃金水準等積み重なった不満がストに発展したもの。一般的な労働争議対応の流れは、上級工会や市政府の仲介をえて交渉を行い、その指示内容で妥結するが、当有限公司は、労使協議による自力決着をした。再発防止のため工会の再構築や集団協議会を設置しコミュニケーションを深めた。

最近のストライキは、工会ではなく、未組織集団が主導し、賃金アップのほか管理制度改革も要求して突発的に発生、公安・地元政府・上級工会が終結に介入する。

日新電機(株) 稲田道雄 常務取締役

「中国ビジネスの留意点と今後の課題」と題してご講演。日新電機の中国の生産拠点としては、電力機器製造販売、ファインコーティング、大連技術開発会社の10カ所。

工場管理の留意点としては、①信頼と信用は区別する、②事実を確認して対処する、③総経理の即断即決、④幹部要員の確保・育成、⑤キャリアアップ・目先志向、⑥競合への転職・引き抜きは普通、⑦監視カメラに抵抗はない、⑧人間対人間の付き合いが信頼関係のベース、⑨関係官庁との良好な関係作りも大事である。

これからの中国事業の留意点としては、①中国リスクの覚悟、②安くて豊富な労働力を求めての中国展開は終焉、③市場としての中国は拡大、④何を競争優位として戦うかの戦略が必要である。日本との違いは、変化のスピード、国の勢い、過大文化である。

福田金属箔粉工業(株) 園田修三 常務取締役

「中国進出時のリスク対策・管理について」と題してご講演。中国進出は、得意先の松下電工が蘇州に進出する際、一緒に進出しないかと打診があったのがきっかけ。1994年進出時は工場建設時のトラブル、初期の停電、盗難事件もあったが、社員は地元蘇州人を採用している。

大切なことは、①日本の常識は世界の常識ではない、②会社の価値観を明確にして従業員の意識改革を、③能力・成果主義による人事労務管理、④工会とは日常的な交流を、⑤副総経理に人を得ること、⑥技術情報・人材の流出がありうる、⑦納入品は厳密なチェックを、⑧平素から役人と接触し、はっきりと主張すること、である。

駐在者は、情熱を持ち、会議では結論を出し、中国人が日本人を観察していることや高いプライドを大切に、本音を聞けるシステムが必要である。

ニチコン(株) 吉田茂雄 取締役兼執行役員営業本部長

「中国華南地区における販売会社の設立」の切り口からご講演。世界の拡販重点地域として、中国は総合成長市場、欧米は環境ビジネス拡販、ブラジル・インドは自動車中心に成長すると捉えている。中国では、自動車やエアコンが飛躍的に成長する。

保税区域地法人は中国元取引ができる。生産現地法人は経営範囲が拡大できるが、他社、他拠点の輸入、輸出、国内仕入れ、国内販売は総売り上げの30%に制限される。既存の現地法人は、上海販社の分公司として展開できるが、自らは外貨預金口座を持てず、在庫も持てない。2004年に独資販売会社が認められ、輸出入、国内取引に制限が撤廃され人民元取引ができるようになったが、外貨取引はできない。2005年には保税区域販社にも対外取引、国内取引が可能となった。

(株)片岡製作所 並河 徹 生産管理室長

「中小企業とチャイナリスク」と題して、銀行勤務時代の豊富な経験に基づきご講演。片岡社長は、海外拠点への営業機能を強化し、海外売上高比率を60~65%に上げるが、国内生産は堅持することを方針とされている。

企業は、中国に進出するしないに関わらず中国との関わり合いは避けられない。工作機マーケットは、中国向けと欧米向けがそれぞれ25%ずつだが、中国シフトが進んでいる。チャイナリスクは避けられない。むしろリスクマネジメント、正しい理解と誠実な対応が必要である。中国人社員に対するガバナンス、人脈に対する留意点、現地調達比率アップからコストダウンへ、回収の難しさ、企業評判やキャッシュフローの重視、知財等のブラックボックス化、など。進出失敗事例にも学ぶべきで、撤退戦略・損切ルールを持つことが必要である。

1月25日夕、リーガロイヤルホテル京都において、『2011年 新春交歓会』が、会員企業トップを中心に約100名の出席を得て盛大に開催された。本会の会員相互が和やかに交流し、親睦を深めることを目的とした本交歓会は、今回が18回目となる。

最初に、服部重彦会長より「私達企業を取り巻く状況はまだまだ厳しいものがありますが、自分の会社は自分で守るという気概を持ち、そして力を合わせてこの難局を乗り越え、会員相互のこれまで以上に緊密な交流を通じて、各企業及び工業会の更なる発展を目指して行きたいと思います。」との開会挨拶が行われ、続いて、天野嘉一副会長の乾杯発声により開宴となった。

しばしの会食懇談の後、昨年の総会以降入会された新入会員である信和化工(株)・和田啓男社長、(株)西嶋製作所・西嶋垂紀彦社長、山分物産(株)・山分芳造社長が登壇、各社の紹介と挨拶が行われ、大きな拍手が送られた。

続いて恒例の「福引大会」が行われ、会員企業55社より提供いただいた83組にも上る景品の当選者が次々と発表されると、例年以上に多い景品当選者の歓声や拍手が続いた。

更に会食懇談を楽しんだ後、毎年恒例の締めくくりのプログラムである、「2011年ハッピーマン選比」が行われた。各テーブルでジャンケンをし、勝ち残った人達が



舞台上に集合、そこで再度ジャンケンをして最後に勝ち残った人が幸運の「2011年ハッピーマン」、惜しくも敗れた他の各テーブル代表者が準ハッピーマンとなった。

「2011年ハッピーマン」は、富田泰溥氏（星和電機(株)名誉会長）で、服部会長より記念品が手渡され喜びのスピーチが行われると、満場の参加者から大きな祝福の拍手が送られた。

その後も懇親交流が繰り広げられ、歓談の輪が広がる中、依田 誠副会長より、「経営者は毎日毎日苦勞し、毎年大変であるが、厳しくても“so what”と開き直って今年1年、また頑張っていきましょう。」との閉会挨拶が行われた。飛び入りの余興もあり、会場が一つになって例年にも増して盛り上がった2011年新春交歓会は、盛況裡に閉幕した。



▲福引大会



▲ハッピーマンを目指して、ジャンケン



▲2011年ハッピーマン

＜外部情報＞

京都創造者大賞2011 ～創造が生み出す伝統～

創造性に溢れた活動が続け、京都ブランドのイメージアップや京都の都市格向上に成果をあげている事例を顕彰する「京都創造者大賞」は今回創設5周年の節目を迎えます。

創造的な取り組みをされている皆様方のご応募、ご推薦をお待ちしております。（自薦・他薦は問いません）

■募集期間：平成23年4月1日(金)～5月31日(火) ※必着

■募集部門：「もてなし・環境」「アート・文化」「企業」「未来への飛翔」

■賞の種類等：京都創造者大賞1点（助成金100万円他）／京都創造者賞 各部門1点（助成金 各50万円他）

※詳細・応募方法のお問い合わせ先。（京都創造者大賞事務局（京都商工会議所産業振興部内））
TEL：075-212-6450 FAX：075-255-0428

第5回ウエルネス研究科を開催

今年度の特徴としては、健康創出産業を今後成長させるためのテーマを前・後期の2コースに分けて京都工業会館で開催した。

前期コース：11月24日～12月22日 5回

受講生21名

ものづくり技術をいかに医療関連分野に展開するか
—成長分野への参入に向けて—

医療関連分野は、景気変動を受けにくく、世界的な高齢化社会が進む中、今後も大きな成長が期待される分野で、医療機器等だけでなく、実験器具、材料など幅広いものづくりのニーズがあり、各々のニッチな市場での多様な要求に応えるには、高い技術を持ち、きめ細かな対応ができる中規模・中小企業こそが適している。

このコースでは同分野で産学連携に取り組む大学研究者や企業の技術者による実践的な講演や視察を通じて、ウエルネス産業分野に進出するためのキーパーソンを育成し、各企業の同分野への参入のサポートを行った。

後期コース：1月26日～2月25日 5回

受講生14名

ICT企業の医療・健康分野ビジネスへの

参入に向けて

医療・健康分野でのICT（情報通信技術）の活用は、医療の高度化・効率化やサービスの質の向上、人々の健康志向の高まり、通信・機器環境の整備などが進む中、今後更なる広がりが見込まれ、ビジネスとして大きな成長が期待される分野である。

このコースでは、医療・健康分野でのICT活用に関し、医療従事者や企業などによる実践的かつわかりやすい講演、医療施設の視察などを通じて、ウエルネス産業分野への進出にあたって必要なキーパーソンを育てるべく、各企業の同分野へのサポート事業を行った。

両コース共、毎回テーマ毎に基調講演、それを受けたテーマの実践事例を企業担当者が紹介する形式で、毎回活発な質疑が行われた。

環境対応型新技術開発支援研究会 オープンセミナー

本研究会は、「企業の独創的技術や製品を発掘し、中小・ベンチャー企業と大手・中堅企業との産・産連携による技術開発を促進する事と、産・産連携に係る人材の交流を図る」事を目的に、平成20年度から22年度まで、京都産業エコ推進機構の支援を得て、オープンセミナーを開催して来た。

平成20年度は、「不揮発性ロジック等を主体としたエコロジーデバイス」、「LED技術とその応用」、「ソフトウェア技術とその応用」をテーマに3回のセミナーを開催し、延190名が参加した。

平成21年度は、「リチウムイオン電池の用途拡大と自動車用途への展開」、「にのいのセンシング技術とその応用」、「省力化に貢献する三次元技術」、「グリーン電力としての太陽電池」をテーマに、4回のセミナーを開催し、延390名が参加した。

今年度は、燃料電池技術、スマートグリッド、省エネ型電子デバイスをテーマに、次に紹介する4回のセミナーを開催した。

【第1回「燃料電池技術の現状と展望」参加者88名】

- ・「定置用燃料電池システム」大阪ガス(株)
- ・「PEFCの酸素分布可視化システム」(株)島津製作所
- ・「Hondaの燃料電池自動車の開発」(株)本田技術研究所
- ・「モバイル・ポータブル用燃料電池発電ユニット」

アクアフェアリー(株)

【第2回「スマートグリッドの構築と関連技術」

参加者103名】

- ・「日本のスマートグリッドの目的とシステム概念」
京都大学

- ・「電力中央研究所のスマートグリッド構想」
(財)電力中央研究所

- ・「ホームエネルギーマネジメント
システムとスマートハウス」大和ハウス工業(株)

- ・「マイクログリッドとビルマネジメントシステム」
清水建設(株)

【第3回「スマートグリッドの構築と関連技術(2)」

参加者138名】

- ・「電気自動車とスマートグリッド」三菱自動車工業(株)
- ・「電気自動車用充電装置とスマートグリッド」

ニチコン(株)

- ・「電力品質とスマートグリッド」日新電機(株)
- ・「産業用リチウムイオン電池とスマートグリッド」(株)GSユアサ

【第4回「省エネ化に貢献するパワーデバイス」

参加者54名】

- ・「SiCパワーデバイス・モジュール開発の現状」ローム(株)

セミナーでは、省エネに貢献する技術、今後の環境産業を担って行くと思われる技術をテーマとし、企業の関心が高いと思われる独創的技術の講演を行い、合計11回のセミナーで述べ960名強の方が参加された事から、今後の環境産業に貢献する技術に対する関心の高さが窺われた。また、セミナー終了後に開催した講師を囲む産・産連携の交流会も、毎回盛り上がりを見せ、有益な人材交流が行われた。

～第13回 京都K A I Z E N大会を開催～

今、変種変量短納期生産の時代を迎え、生産部門には段取り改善やカンバン方式によるフレキシブルな生産体制の構築が求められているが、本会ではこれらの課題への対応事業として、1999年より「京都K A I Z E N大会」を開催している。

この事業は、I E手法の効果的な活用方法を研究している本会・生産革新研究会：基礎IE部会及びトヨタ生産方式の構築方法を研究しているJ I T改善部会をベースに広く会員内外に参加を呼びかけており、今回も63社110名の参加者を得た。

冒頭、技術・教育委員会 委員長 太田 稔氏（日新電機(株)）が「厳しい経済情勢の中、他社の事例や講演を通し、今後の自社の生産革新活動に活かして欲しい」と挨拶。

まず、第1部として、基礎I E部会が、(株)工進で行った現場改善実習について、各チーム毎にその改善提案を報告した。

その後、実習会場をご提供いただいた(株)工進 製造部

係長 笠井則宏氏の「異業種の方々のアイディアは参考になる。ぜひ、参考にしたい」とのコメントが披露された。

そして、基礎I E部会アドバイザー 吉植久正氏（N P Sソリューション代表）が「各チームともI E手法を効果的に活用できた実習だった。」と年間活動をまとめた。

続いて、トヨタ生産方式の構築方法を工場見学を通し研究してきたJ I T改善部会より、J I T見学事例やO B企業訪問による生産革新活動のポイントを報告し、J I T改善部会アドバイザーの岩井一郎氏（生産システム改善研究所所長）が、「J I T生産構築のポイントは、生産の平準化と情報化で各部門をスルーにつなぐ事。」と年間活動を総括した。

そして、第2部は、自律的な改善活動として著名なR－C A T S活動の推進者であるシャープ(株)C S推進部参事 高木 美作恵氏が、「和の力で変えることへの挑戦活動」と講演し、盛況裡に大会を終えた。

京都高等技術・経営学院

第30回 電子システム研究科 11名
第27回 メカトロニクス研究科 16名が修了

2月23日(水)午後、平成22年度の京都高等技術・経営学院（学院長：天野嘉一副会長）の長期研修2コースの修了式が京都工業会館にて行われた。

当日は、修了証書の授与、皆勤・精勤賞の授与に続き、本会 黄瀬謙治専務理事（天野学院長代理）の式辞、そして来賓の京都府中小企業技術センター 副所長 三宅修二氏（京都府知事代理）より祝辞が述べられた。

<第30回 電子システム研究科>

修了生 11名（11社）

皆勤賞 （5名）

武田 信行（(株)片岡製作所）
奥村 皓史（(株)島津製作所）
久保 敏裕（日新電機(株)）
四方 達也（日東精工(株)）
棚田 博（日本輸送機(株)）

精勤賞 （1名）

東 隆弘（(株)日進製作所）

<第27回 メカトロニクス研究科>

修了生 16名（11社）

皆勤賞 （2名）

谷内 博一（(株)島津製作所）
熊田 亘（日本輸送機(株)）

精勤賞 （4名）

角 正吾（(株)G Sユアサ）
高橋 克拓（(株)G Sユアサ）
亀尾 聡（(株)島津製作所）
松下 知義（(株)島津製作所）

～他社の風土(手法、仕組み、ものの見方、考え方)に相互に触れ、注目の現場力及び人間力の向上を図る～

平成23年度 業務革新研究会・会員募集

- ◇開催目的 各種手法やものの見方や考え方を磨き、業務革新を推進する人材の育成を図る
- ◇対象 管理技術関連部門のリーダー（主任、係長）及びその候補
- ◇会場 京都工業会館（京都市右京区西京極豆田町2）ほか
- ◇期間 平成23年4月～平成24年2月（計11会合） 13：30～17：00
- ◇運営 ①メンバーの目標や課題について、正副主査（その年度の登録メンバーより選出）を中心に企画し、基本を踏まえた実践的な運営を図ります。
②メンバー間のギブ&テイクや専任アドバイザーの助言、ゲスト講演、工場見学、演習などを効果的に実施いたします。
- ◇メリット ①実践的な内容により、一般のセミナーでは得られない幅広い視野と発想力を養うことができます。
②メンバー間やアドバイザー及びゲスト講師との人的ネットワークが構築できます。
- ◇展開 前期・基本編（5月～9月）⇒参加目的や実務経験に応じた選択制を採用
Aコース：基本知識の徹底習得、Bコース：応用実務研究
後期・実務編（10月～2月）⇒コース毎の課題の掘り下げ（必要に応じ実習、大会等を開催します。）
※研究会横断的な特別事業も適時行い、参加企業間の交流を深めます。
- ◇年会費 各研究会毎に1口 京都工業会 会員企業 70,000円（税込）
（但し、1口につき2名の参加ができますので、極力2名ご登録願います。なお、合宿研修会等は別途、特別会費をご負担いただきます。）
- ◇申込 (社)京都工業会 業務課 TEL.075-313-0751

【総合オリエンテーション・第1回会合】 4月26日(火) 13：30～17：00 於：京都工業会館

＜8 研究会の主な研究予定項目＞

品質革新研究会 —初期流動管理及び工程内品質対応による品質革新力の強化—

- ◇初期流動管理による生産初期段階の品質向上
- ◇手法活用による工程内不具合及びサプライヤー、客先クレーム&故障解析
- ◇企画、開発段階での新製品評価方法
- ◇ソフトウェア開発における品質保証方法
- ◇企業訪問や講演による先進企業の事例研究

生産管理（TOC）研究会

—TOC制約条件理論による生産管理革新—

- ◇生産管理の基礎研究ともの作りに関する問題解決方法
- ◇生産方式(MRP、製番、かんばん)の違いと管理ポイント
- ◇生産管理システムとIT活用事例(ERP)
- ◇先進企業の訪問や事例紹介に学ぶ生産管理システム
- ◇参加企業における全体最適もの作りの研究(TOC実践演習)

購買調達革新研究会 —購買調達革新によるコスト競争力の強化—

- ◇あるべきコストの求め方と運用及びコスト体系
- ◇購買市場調査の計画立案と進め方
- ◇パートナー企業の集約・評価、指導、育成方法
- ◇下請法に基づく集中購買、拠点購買、開発購買等、購買戦略
- ◇グローバル調達とSCMを組み合わせた新しい調達方式

生産革新研究会:基礎IE部会

—IE手法による徹底したムダの排除—

- ◇3S、5Sの導入・定着と効果的な運用方法の事例
- ◇IE手法・通り診断法による効果的な現状分析
- ◇標準作業3点セットによる改善方法
- ◇現場改善実習による作業改善方法の実践
- ◇外部企業訪問によるIE活用事例研究

生産革新研究会：JIT改善部会

—トヨタ生産方式による生産革新力の強化—

- ◇JIT生産構築方法
- ◇流れ生産方法
- ◇平準化方法及び各種ツール(ICタグ等)活用
- ◇かんばん、ストアの運用・管理
- ◇JIT生産企業の訪問やメンバー企業におけるJIT実践

VE(開発・設計革新)研究会 —機能研究による付加価値の追求—

- ◇簡易演習によるVE活動の実施手順
- ◇開発設計プロセスにおけるVE活用
- ◇開発設計プロセスにおけるQFD、DR
- ◇企業の事例を用いた開発、設計段階のVE実践
- ◇先端事例に学ぶVEツール活用、リーダー育成方法

生産現場リーダー力強化研究会

—監督者哲学、リーダーシップ養成の場—

- ◇作業の標準化による品質の作りこみ
- ◇改善提案、5S、KY活動による強い現場作り
- ◇製造コストダウン(設備、治具、工程改善)
- ◇リーダーシップ(部下指導・育成、監督者哲学)
- ◇企業訪問による現場管理・改善事例の研究

設備保全(TPM)研究会 —自主保全、個別改善、LCAによる設備稼働率向上—

- ◇生産システム効率化の個別改善
- ◇オペレーターの自主保全体制づくり
- ◇保全部門の設計保全体制づくり
- ◇品質保全体制づくり
- ◇先進工場訪問によるTPM活動の推進事例の研究及び参加企業でのTPM実践研究

平成23年度

知的財産権研究会 ご案内

目 的 知財スタッフとしての業務推進力の向上、及びヒューマンネットワークの構築

対 象 者 知的財産権関連部門の中堅実務者及び同候補

期 間 平成23年 5月26日(木)～平成24年 2月
原則として毎月第4木曜日 13:30～17:00開催

会 場 京都工業会館ほか

運 営 ①代表幹事を中心に企画し、参加者の意見を基に柔軟に運営を図ります。
②◇ゲスト講演 ◇企業見学 ◇裁判傍聴
◇ディスカッションなどの活動手法を用いて知財感覚を磨き、効果的に実力アップを目指します。

専任アドバイザー 日本新薬(株) 知的財産部担当部長・弁理士
清水尚人氏

年 会 費 本会会員企業 70,000円／1口(税込)
(1口2名まで登録可能です。なお、外部研修等は別途、特別会費を頂きます。)

問 合 せ 社団法人 京都工業会(業務課)
(TEL) 075-313-0751

第43回 通 常 総 会 〈予告ご案内〉

と き：5月20日(金) 15:00～18:30

ところ：京都東急ホテル

議 題：・第43期事業報告及び収支決算承認の件
・第44期事業計画及び収支予算決定の件
・役員欠員に伴う補充選任の件
・定款変更の件
・役員報酬規程の件
・新法人移行申請の件

平成23年度 京都府優秀技能者表彰

「現代の名工」

〈金型仕上・組立〉 (株)山岡製作所 小倉 匠氏
〈非破壊検査〉 (株)寺内製作所 福島祥夫氏
〈人工歯成型〉 (株)松 風 森本寿子氏

平成23年度 京都府青年優秀技能者奨励賞表彰

「明日の名工」

〈研削盤〉 (株)山岡製作所 小島政仁氏
〈機械保全〉(団体会員) (株)タンゴ技研 岸本昌市氏
本会関係では、5氏が受賞されました。
会員各位とともに、心よりお祝い申し上げます。

新入会員ご紹介

〈正会員〉

(3月8日、第280回理事会で承認されました。)

会 社 名	代 表 者 名	所 在 地 (TEL・取扱品目)
エ ー シ ッ ク (株)	会 長 神 野 勝	〒611-0031 宇治市広野町西裏37-1 TEL.0774-41-3777 FAX.0774-44-6575 電子機器用部品製造 主に、発光ダイオード(LED)部品及びLED応用製品、開発・製造
コ フ ロ ッ ク (株)	社 長 小 島 真理子	〒610-0311 京田辺市草内当ノ木1-3 TEL.0774-62-4411 FAX.0774-63-5041 面積式流量計、流体制御バルブ、電子式流量計、各種流体制御装置、窒素・酸素・オゾンガス発生装置、燃料電池評価装置、脱臭装置、水処理装置等の製造販売
日本ソフトウェア サービズ (株)	社 長 大 西 克 典	〒600-8389 京都市下京区大宮通四条下ル四条大宮町21 TEL.075-842-1781 FAX.075-812-3209 ・トータルシステム開発及びソフトウェア開発 ・システムコンサルタント ・コンピュータ及び周辺機器販売

京都工業会ニュース No.367

■2011年 4月11日発行

■発行 ―― 社団法人 京都工業会

☎615-0801 京都市右京区西京極豆田町2
TEL.075(313)0751 FAX.075(313)0755
U R L : <http://www.kyokogyo.or.jp>
E-mail : info@kyokogyo.or.jp